

2004年2月20日

報道関係各位

鐘淵化学工業株式会社
藤沢薬品工業株式会社

「タクロリムス」塗布ステントに関するライセンス契約締結のお知らせ

鐘淵化学工業株式会社（本社：大阪市北区、社長：武田正利）と藤沢薬品工業株式会社（本社：大阪市中央区、社長：青木初夫）は、このたび、藤沢薬品の免疫抑制剤「タクロリムス」（一般名）を塗布した冠動脈ステントについて、鐘淵化学が再狭窄予防用途にて全世界で非独占的に開発、生産並びに販売するライセンス契約を締結しましたので、お知らせします。

現在、冠動脈閉塞や不安定狭心症治療では、患者負担低減のため人工心肺装置や心停止措置を行わない低侵襲性治療が広く行われています。血管内経路の確保のために行うバルーン法による血管拡張やステント留置もその一つであります。治療後半年以内に20%から40%の患者に再狭窄が見られ、治療上大きな問題となっています。この再狭窄を防ぐために、免疫抑制剤や抗癌剤などの薬剤を塗布したステントが現在世界的に注目を集めています。これら薬剤塗布ステントの市場は、2005年頃には全世界で約4,000億円規模になると予測されています。

藤沢薬品は、「タクロリムス」を移植領域において免疫抑制剤「プログラフ®」として、また、皮膚科領域においてはアトピー性皮膚炎治療剤「プロトピック®」として、それぞれ発売しています。循環器領域についても、本剤をステントに塗布することにより、冠動脈の再狭窄が低減されることが想定されております。

鐘淵化学は、ライフサイエンス分野における医療器事業の中で、循環器、透析領域での病因物質吸着システムである「リポソバー®」、「リクセル®」等を、さらに、関連会社である(株)カネカメディックスと連携し、循環器、脳外科領域においてPTCAバルーンカテーテル等の高付加価値インターベンション製品の開発・製造・販売を行っています。

今回のステントは、鐘淵化学の独自開発のユニークなデザインを特徴としており、そのステントに「タクロリムス」を含有するポリマーを塗布し、さらに、鐘淵化学の高性能デリバリー用バルーンカテーテルと組み合わせることにより、冠動脈の再狭窄の発生頻度を画期的に低減させようとするものです。

今後の予定として、鐘淵化学は、早期に「タクロリムス」塗布ステントの前臨床試験、臨床試験に進む予定です。

以上

お問い合わせ先	
鐘淵化学工業株式会社	
大阪本社	〒530-8288 大阪市北区中之島3 - 2 - 4
広報室	TEL：06-6226-5019 FAX：06-6226-5106
藤沢薬品工業株式会社	
大阪本社	〒541-8514 大阪市中央区道修町3 - 4 - 7
広報室	TEL：06-6206-7857 FAX：06-6206-5016